

# イエスについて学ぶチエコ

教会機関誌

ルーシー・スティーブンソン・イーウェル

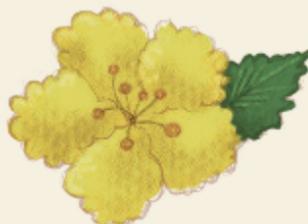
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)



ハワイは太平洋にある群島で、アメリカ合衆国の一部です。



ハワイには二つの神殿があります。



ハワイの州花は黄色いハイビスカスです。

チエコは、自分が着ている白くてやわらかいドレスのしわをのばしました。チエコはクリスマスのこうたんげきで天使の役をまかされて、げきはもうすぐ始まる場所でした。

チエコはクリスマスについてもイエスについても、あまりよく知りませんでした。チエコの家族は日本からハワイにやって来た仏教徒だったので、それでも、お父さんの上司からげきに出てくれないかとたのまれて、チエコはげきに参加するのを楽しみにしていました。チエコは一生懸命にせりふを覚ええました。

「おそれるな。」チエコは舞台上に立って言いました。「きょうダビデの町に、あなたがたのためにすくい主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。」チエコはこのげきに参加できたことを心からうれしく思いました。

何年かたって、チエコは宣教師たちに会いました。末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師でした。「教会に来て、イエス・キリストについてももっと学びませんか」と、宣教師たちはたずねました。

チエコは、クリスマスのげきで自分がやった役のことを思い出しました。イエスってだれなんだろう？ チエコはそう思い、もっと知りたくなりました。

家に帰ると、チエコは両親に、宣教師と一緒に教会に行ってもよいかなとたずねました。「もちろんいいわよ」とママが言いました。「これからもわたしたちと一緒に仏教のお寺に行くならね。」

教会で、チエコは新しい歌を習い、新しい友達ができました。日曜学校では、イエス・キリストが神の御子であることを学びました。イエスのおかげで、チエコはくい改めて、いつか神とともに住むことができるのです。チエコは心の中に何か特別なものを感じました。チエコには、イエスがほんとうにおられることがわかりました。

何年かがすぎました。チエコは毎週、家族と一緒に仏教のお寺に行きました。そして毎週日曜日には教会に行きました。

15才のとき、チエコはバプテスマを受けたいと思いました。両親に



チエコと夫のエドワードには二人の息子がいました。



チエコは学校の教師であり校長でした。



教会で奉仕をしたとき、チエコは英語、日本語、韓国語、トンガ語、スペイン語で話をしました。



チエコは心の中に何か特別なものを感じました。

たずねるのは、少しこわい気がしました。でも、両親はチエコをおうえんしてくれました。「チエコなら、良いむすめにも、良いクリスチャンにもなれると知っているよ」とパパが言いました。チエコはよろこびでいっぱいでした！

大きくなってからも、チエコはイエスにしたがいつづけてきました。時々、チエコが日本人だからという理由で、チエコに対していやな態度をとる人もいました。けれども、チエコはくじけませんでした。チエコはだれにでも親切にしました。

63才のとき、チエコは中央扶助協会会長会の一員として奉仕するようにめざれました。チエコは世界中の教会員のもとをおとずれました。すくい主の愛を分かち合いました。

総大会でも話をしました。チエコはこう言いました。「キリストのみもとに行き、すべての良いものをあたえてくださる主をよろこびましょう。」●

\*「すべての良いものを喜びなさい」『聖徒の道』1992年1月号、100